

神奈川県立こども医療センターオレンジクラブ



ボランティアニュース

202号 2020年8月号

発行 神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦興

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

暑中見舞い：オレンジクラブの皆様へ

ランフォーキッズ代表 泌尿器科：山崎雄一郎

暑中お見舞い申し上げます。今年はコロナに加え、梅雨明けも遅く、異例の大雨で気持ちもはれない日々が続いておりますが、オレンジクラブの皆様はお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。日頃よりいろいろとお世話になりながらも、ご無沙汰しており申し訳ございません。ランフォーキッズも今年は駅伝もマラソンもできなくなりました。恒例のオレンジクラブへの寄贈も危ぶまれましたが、応援して下さる多くの皆様が発注された T シャツをご購入していただいたおかげで例年通り行うことができ大変嬉しく思っています。僕から見るとオレンジクラブの皆様はこども医療に「色をつけてくれている」と感じております。仕事でほかの病院をおとずれ、最新の病院のきれいな設備に感心することも多いのですが、こども医療にもどって嬉しいのは、ああ、ここはカラーだということ。ランフォーキッズもオレンジクラブの皆様とともにこども医療を優しさで染め上げるお手伝いをできればと思っております。まだまだ暑さもコロナも続きます折、なにとぞ御身を大切にお祈り申し上げます。まずは暑中お見舞いまで。



「新しいボランティア活動様式」から~オンライン会議開催

7月13日オンライン(Webex)を利用して、ボランティア運営会議を開催しました。新型コロナウイルス感染対策がとられるなか1ヵ月延期しての開催でした。この会議は、通常50名ほど参加しています。今回は、東京から参加の4名を含め、オンライン参加が20名、講堂に17名参加で開催しました。

5月に、オレンジクラブ代表の三木さんとオンライン会議を決めました。高齢の方も多く、難しさを感じていました。会議当日、徒歩圏内の方は病院に来ましたが、スクリーンには70代80代の方も参加しました。初めは、できないと話していた方も協力し合って、方法を習得していました。今回は、事務局のボランティア担当の杉山さんが奮闘し、事前練習もして、成功に繋がりました。皆さんのお力で、「新しい活動様式」がスタートし始めています。

会議では、この状況にどう立ち向かうかの知恵を出しながら、こどもたちに笑顔を届けるための話をしました。タブレットの購入の話や、本の貸し出しとお話会の「ぼぼんた」グループからの再開希望の提案などが話されました。



ぼぼんた通信③

8月に入っても病院のコロナ対策はやっぱり厳しい。当然の事だが……

図書室司書の渡辺さんが、各病棟と施設の看護師さん保育士さんにアンケートをしてその結果本の貸し出し、ぼぼんたのおはなし会は必要といくつかの病棟から返事もらった。

ぼぼんたメンバーの今の気持ちはぼぼんた一斉メールで返事もらった。それぞれの気持ちは痛いほど伝わってくる。

これらを参考にして、「ぼぼんた活動再開にむけて」会合を持った。出席者は司書の渡辺さん加藤コーディネーター、ぼぼんたリーダー、きくちゃん。

何もしないでただ待っていないで、行動を起こそう。ぼぼんたが病室に入るのはまだまだ先のような、ならば、本の貸し出しはどうだろう。ぼぼんたが選書し消毒した本を病棟の外で貸し出すのは？又 オンラインでぼぼんたのおはなし会を届けるのは？

ぼぼんたのメンバーはそれぞれの家からZoomで絵本や手遊びを送信し合っているような。

まだ手探りだが……これが病室に届いたらいいのに。

加藤コーディネーターに活動再開を病棟に交渉していただくのだが、うまく行きますように！

*お知らせ~ぼぼんたの、本貸し出しは9月スタート予定で準備を始めています♡

今起きている事から～

- * 図書に置かせていただいている『マルシェ』マスクやCV用のスタイが売れてます。(写真1)
- * 患者図書が再開して、患者さんご家族の方も3密を避けて利用されています。
- * 作業の方は、2つの部屋を利用して密をさけて活動しています。
- * 園芸の方は、午前午後活動する方もおりますが、昼食時は離れたところで食事されています。
- * 外来の方で、縁石につまずき転倒した方がいます。フェイスシールド利用で視界が狭まれた事も考えられます。注意して活動する必要があります。
- * 外来の折り紙作品は、きょうだい預かりの方が傍にいて、お子さんが選んだものを渡しています。
- * 火曜日の午前中、総合待合で高野さんがピアノ演奏を再開しました。接触を最小限にしながらかくエストに応じて演奏しています。(ほかにも、松崎さん・田中さんなどが演奏いたします。)
- * きょうだい預かりでは、7月に病棟の御家族に、ごきょうだいの事についてアンケートを取りました。ご協力いただいた方々ありがとうございました。
- * 飾り付けグループでは、こころの診療病棟のドアや手術室への通路や肢体棟への通路の大型貼り絵を更新しています。(写真2～6)
- * アートディスプレイでは、七夕飾りをかたづけした後に新しくヨシタケシンスケさんの夏用飾りを作成して飾りました。(写真7)
- * 縫製グループにはたくさんの依頼品が届いています。8月は活動が1回です。
- * ホスピタルクラウンは、8月11日火曜日午後総合待合で3密避けてパフォーマンスをします。ご覧いただく方も距離を置いてお楽しみください。
- * フットサルリボンの久光氏から頂いた『チェキ』を使い、夏まつりの時、3密避けて写真を取り、メッセージを入れてプレゼント！楽しんでもらいました。病棟保育士より

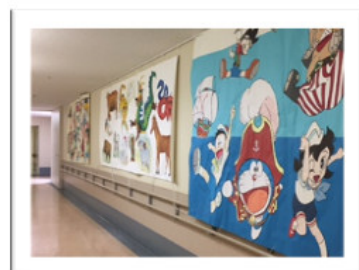
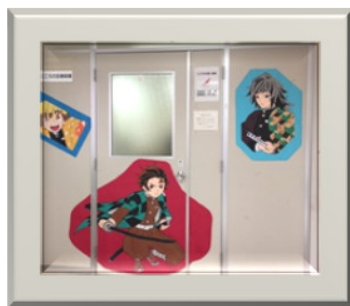


写真2 ↑ 写真5 ↓

写真1 ↑
写真4 ↓



写真3 ↑
写真6 ↓

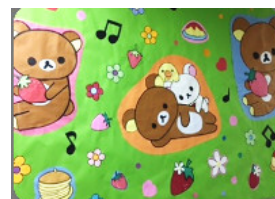




写真7 ←管理棟への通路の壁

写真8 ↓本館5階家族待合室

きょうだい預かりの保育士が飾りつけをしました。



ボランティアさんが、帰りに活動中に気になったことを話してくれました。

「ごきょうだいが病院に入れないので、ごきょうだいで待っていたり、ゲームして一人で待っているのを見かけたりする。遠くから見守っている。夏休みになり、暑く余計心配になる。」と。

このことは大切な話であり病院にも伝えました。ボランティアさんが気になった事には、とても大切なことが含まれています。『だって、しょうがない』では済まされない事があります。私が看護師をしていた頃、病棟のドアの前できょうだいが静かに待っていた事を思い出します。現在きょうだい預かりの保育士をしている小林さんは、「自分がボランティアで外来に立っていた頃、御家族から『きょうだい預かりはないんですか』と何度も言われ、その必要性を強く認識した」と話していました。きょうだい預かりは15年前に開始した活動です。

話は変わりますが、今この状況下で起きていることをしっかり見る必要があると感じています。ある方から「ボランティアさんの活動自体が、すすむべきかとどまるべきかで知恵が必要なときかと思う。大変とは思いますが、終息するときは必ずあるので忍耐をもちつつ、今いるこどもたちに笑顔を届けてください。」とメッセージを頂きました。「知恵」という言葉が気になり、国語大辞典で調べてみました。**知恵**：物事のすじみちを知り、前後をよく考え、計画し、正しく処理する能力。学問・知識だけを積み重ねただけでなく、人生の真実を悟り、物事の本質を理解する能力。または知識を正しく使用できる実践的な英知、とありました。頂いた言葉が重くのしかかります。この状況にまだまだ長く付き合う必要があります。

ボランティアコーディネーター加藤

